

よなか ふしぎ わ  
世の中には不思議で分かりづら  
いことがたくさんあります。自然、  
科学、歴史など、詳しい先生に解き  
あ明かしてもらいましょう。

# 知りたい好奇心



©黒ゆたか / ポプラ社

# プラスチックごみ問題 有害物質の影響が心配

身近な場所に、知らないうち他人にごみを捨てられるのは気持ちのいいものではありません。ごみをどこにでも捨てない、というごみ問題は、一般常識として定着しているかと思えます。しかし、「ごみを捨てないようにしよう」といった看板は今も川に立てられています。ごみ問題は、まだ解決していないのです。

## 川を下り海に到達

ごみ問題は、以前はそれが捨てられている環境の景観が悪くなる、つまり誰かが気分が悪いと感じるから問題でしたが、最近はそれだけではない面がクローズアップされています。プラスチックごみの問題です。

写真のように、川の中にペットボトルやレジ袋が浮いているのをよく見かけます。これが川を下って海に到達し、時間をかけて小さく砕かれてゆきます。すると、その表面に、水に流れ込んできた非常に少量の有害物質を集める働きがあることから、結果として有害物質は濃



縮されます。見つけたら拾おう



海底のごみの様子が見られるサイト（http://www.godac.jamstec.go.jp/catalog/debris/index.html）があります。

そしてそれが海の生き物たちに食べられると、プラスチック自体ばかりでなく、その表面に集められた有害物質が魚に悪い影響を及ぼすのではないかと心配されるようになります。私たちが食べる魚類への影響の大きさはまだはっきりと分かっていませんが、海洋に非常にたくさんプラスチックが漂い、また海底にも沈んでいることも次第に明らかになってきました。

上流から流れてきたと思われるプラスチックごみ。残念ながらよく見かける光景です。

プラスチックは軽くて使いやすい、やすすぐとも便利なもので、今では生活になくてはならないものになりました。一方で、問題があることも分かってきました。環境に関わる問題にはこのように、皆さんの暮らしをより良くしようとしたのに気がついたら思いもよらないことを引き起こしていたというケースが多いのです。

プラスチックごみは誰かが捨てるからごみとなりますが、誰かが拾えば海まで流れ下ることはありません。暖かくなり、川に出かけるのも楽しい季節になりました。川の中や川原にごみを見つけたら、みんなでごみ拾いをしませんか。

（山梨大学大学院総合研究部生命環境学域教授・大学院国際流域環境研究センター教授 風間ふたば）